

今後の農業機械化政策の展開方向(中間論点整理)(案)の概要

1 基本的な考え方

- 担い手への農地集積や規模拡大等の実現に向けて、省力栽培技術の開発・導入や、ロボット技術・ICT等先進技術を活用したスマート農業の実現など、生産・流通システムの技術革新が必要。
- また、農業現場では、農業従事者の高齢化や労働力不足への対応とともに、法人経営の増加に伴う雇用就農者が増加する中、農作業事故防止の徹底など、待ったなしの課題が存在。
- 諸課題に対応し、農業の成長産業化を実現する観点から、農業機械化政策を抜本的に見直し。

2 今後の政策展開に当たっての主な論点

(1)農業機械の開発・改良・普及

生産・流通システム全体の効率化・省力化を図るための機械開発を行う仕組みの導入や、研究機関と担い手、異分野を含めた民間企業等の連携を強化し、全国・地域レベルでの開発・改良・普及を加速化する仕組みを構築することを検討。

スマート農業の将来像等の実現に向け、革新的な農業機械・ロボットの研究開発にチャレンジ。

【主な論点】

- ・ 品種・栽培体系技術の研究開発との一体的な取組の充実
- ・ 担い手の開発ニーズを効率的に吸い上げる仕組みの構築
- ・ 地域レベルでの機械開発を促進する取組の検討
- ・ 先端的、基盤的な技術の開発・導入のための異分野研究との連携促進 等

(2)農業機械に係るコスト低減

農業機械の効率利用はもとより、海外向け低価格モデル農業機械の国内導入や部品の削減・共通化など従来のアプローチに加え、農業機械メーカーの国際展開を促進することによる国内供給コストの低減や、電動化など今までにない発想での農業機械の開発等を推進。

【主な論点】

- ・ 海外展開の促進による国内供給コストの低減
- ・ 電動化など新たな技術要素の導入の検討
- ・ 担い手が求める機能に対応した農機の開発・改良と効率的な利用形態の推進 等

(3)農作業安全対策の推進

実効性ある農作業安全対策に必要なPDCAサイクルの構築に向け、事故情報の収集・分析体制の強化や農業機械メーカーにおける安全設計の一層の促進等に加え、高齢者をはじめ農業者一人一人の安全意識の向上や安全に作業できる環境整備など、実効性の高い対策を一体的に推進。

【主な論点】

- ・ 農作業事故情報を効果的、体系的に収集する仕組みの構築
- ・ 専門家を交えた事故分析体制の構築、分析情報の発信の充実
- ・ 企業における安全設計を一層促進する方策の検討
- ・ 安全意識を高め、安全利用の促進を図る取組の充実 等

3 今後の取組方針

- 主な論点を踏まえ、具体的な取組の検討を進め、農業機械化促進法に基づく基本方針や平成28年度からの(国研)農研機構の中期目標等に反映。
- 農作業安全対策については、安全分野の専門家等を交えた更なる検討が必要であるため、ワーキンググループを設けて具体策の詳細を検討。